

令和4年度 延岡市立島野浦学園 学校評価書

教育目標「ふるさとを誇り 自他の幸福を築きながら 時代をたくましく生き抜く人材の育成」				4段階評価 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する						
評価項目	重点目標	方策・手立て	具体策・数値目標	アンケート			学校の自己評価		学校関係者評価委員会	
				生徒	保護者	教師	成果と課題	評価	評価	所見
命を大切に (豊かな心の育成)	1 自己肯定感を育む教育の充実	ア 自信をもたせる指導の工夫 イ 一人一人の挑戦目標(課題)の設定 ウ 認め合う・高め合う人間関係の醸成 エ ステージリーダーの育成 (異学年交流・世代間交流の充実)	○成功体験をさせるために、児童生徒1人1人に様々な場面で役割を与え、活動を行わせる。 ○児童生徒会活動や清掃活動、特別活動、昼休み時間等を通じて異学年と交流し、互いの意見を尊重し合える場面を設定する。 ○後期課程生徒が前期課程児童をリードできるように、様々な活動等において魅力ある(憧れる)姿を見せられるような指導を行う。				○異学年交流の場を設けることができた。 ●1年を通して、自分たちの役割やステージごとのつながりが見えてきているので、子どもたち主体で行動できるよう、リーダーの育成に力を入れていきたい。 ○実施できており、今後も継続していく。	3	3	○島の伝統や文化など、住民がらの生の声を積極的に学び、自らの学習に生かしていると感じました。 ○家族以外の人との交流を通して、先輩・後輩の関係がより深まると感じている。 ○1つの学校としてのまとまりが見え、活力もでてきた。 ○登校の際に、自分からあいさつをしている。また、後期課程の生徒が、前期課程の児童の手助けする姿が見られる。
	2 豊かな道徳性と人権感覚の育成	ア 道徳科の授業の充実 イ いじめゼロの学校づくり ウ インクルーシブ教育の充実	○月1回の校内生活(なやみ)アンケートと学期1回の教育相談を実施する。 ○毎週(水)に児童生徒理解の時間を設定し、第4週には、いじめ不登校対策委員会を実施する。 ○「特別の教科 道徳」「特別支援教育」の職員研修、を年1回実施する。	87.9%	88.7%	74.2%	○コーディネーター派遣や外部講師を招いた研修を実施できた。	4		
	3 基本的生活習慣の育成	ア 心からの「あいさつ」「返事」 イ 無言清掃の徹底とボランティア活動の推進 ウ 時間厳守の意識付け	○年2回のあいさつ運動を実施し、無言清掃の意識を高めるために、清掃反省会を実施する。 ○チャイム黙想を行い、授業を開始する。(学習文化委員会とのタイアップ) ○ボランティア活動に取り組む児童生徒を称賛し、意識を高める。				●「自分からあいさつ」を育てるための手立てや「時間厳守」子どもたち自身にふり返る場を設ける。(礼法指導の実施)	2		
	4 非認知能力の育成	ア 目標に向かって頑張る力の育成(自己力) イ 人とうまく関わる力(社会性) ウ 感情のコントロール力の育成	○委員会活動での目標を学期ごとに立て、活動について振り返る時間を設ける。 ○昼休み時間を利用した、全校での遊びや活動を実施する。 ○島浦学を通して、様々な情報を収集するために、取材やインタビューを行う。				○島浦学を軸として、発達段階に応じた活動や取材等を行うことができた。(インドネシア実習生との交流の機会をつくることができた。)	3		
楽しく学ぶ (確かな学力)	1 課題を明確にした授業改善	ア 各種調査結果等の分析各 イ 「わかる」「できる」ための授業改善 ウ 相互参観授業の実施 エ チェックポイントを意識した授業づくり	○各種調査結果の分析を共通理解し、授業改善に生かす。 ○授業中の習熟時間を確保し、個々の課題に応じた個別指導を実施する。				○多くの教師が(他学年の授業に)乗入れることで、それぞれの専門性をいかした指導や各教科の系統性を意識した指導を行うことができた。	3	○充実した環境を十分に活用している。 ●規則正しい校時程の活用をお願いしたい。(生活のリズムをつくる上でも)	
	2 ICT等を活用した授業の創造	ア 主体的・対話的で深い学びの場の設定 イ 個別最適化学習等の充実 ウ 交流学習の充実や遠隔授業への挑戦	○とりあえず活用する⇒効果的な活用へ ・発表や習熟、調べ学習で積極的に活用する。 ○他校との交流や遠隔授業の推進(年2回の実施を目指す。)	80.0%	70.1%	92.3%	○各教科で効果的に利用・活用している。 ○欠席児童生徒へのリモート授業の対応をスムーズに行うことができた。	4		
	3 自立した学習者の育成	ア 学ぶ楽しさをもたせる工夫 イ 陰山メソッドの充実(朝の活動の充実) ウ 読書(家読)の充実 エ 家庭学習の充実	○朝の活動「島っ子タイム」における「音読」と「100マス計算」の実施(前期課程)、習熟時間の確保(後期課程) ○年2回の家読と年5回の読み聞かせの実施。 ○「家庭学習のポイント」の配付。宅習ルーシーや自学ノートの展示の実施。				○読み聞かせ、図書館祭り、選書会など本に興味関心をもつための取り組みができた。 ●朝の時間が不定期になっていたため、計画的な取り組みができなかった。	3		
命を守る (健やかな体の育成)	1 安全教育の充実	ア 危機予測・回避能力の育成 イ 防災教育の充実	○月に1度の安全点検を確実に実施し、年1回の交通安全教室を実施する。 ○防災意識を高めるために年3回の避難訓練を実施する。				○交通標識や正しい自転車の乗り方について講師を招き、指導を行うことができた。	4	○交通安全教室や避難訓練等は、自分の命を守るために、守らなといけない事項を再認識する場となるので、今後とも継続をよろしくお願ひしたい。 ●スマホの所有も考えて、学校でも使い方等の指導もお願ひしたいし、島での相談役も必要になっている。	
	2 規則正しい生活リズムの定着	ア 早寝・早起き・しっかり朝ごはん イ 家庭と連携したメディアコントロール力の育成 ウ コロナウイルス感染症への対応	○給食前の手洗い・消毒を徹底する。 ○むし歯の治療率100%を達成する。 ○年2回のメディアコントロールを実施する。 ○毎日の健康観察や消毒作業の徹底を図る。	81.7%	88.5%	89.8%	○感染症の流行は見られなかった。今後も継続していく。 ●メディアコントロール達成率が低く、今後、家庭と連携し、改善を進めたい。	3		
	3 体力向上に努める児童生徒の育成	ア 健康診断後の治療率の向上 イ 体力向上プランの確実な実践 ウ 食育の充実	○健康ごとに保護者へ啓発する。 ○体力テスト判定A判定を1名増及びD-E評価ゼロを目指す。体育の運動時間の確保。 ○栄養教諭との連携授業を年1回実施する。				○体力テストは、A判定を増やすことはできたが、D-E判定をゼロにすることはできなかった。	4		
地域連携	1 新教科「島浦学」の充実	ア 体験活動の実施 イ 探究活動の構築 ウ キャリア教育との関連	○年間2回以上の島の「ひと・もの・こと」を生かした体験活動を実施する。 ○体験活動前後の探究活動の充実を図る。 ○キャリアパスポートの活用を図る。	100%	96.9%	100%	○地域の方に協力していただきながら、学年ごとに特色ある学習を実施することができた。 ○今年の反省を生かし、よりよいものに更新できるように主題研を計画的に行うことができた。	4	○昨年よりも、地域住民との交流を積極的に進めていると感じました。大変良いことだと思います。	
	2 学校運営協議会(コミュニティスクール)の設立	組織編成	○長期休業中にコミスクへの理解を深めるための職員研修を実施する。 ○学校運営協議会委員との熟議(12月)を設定し、学校と地域で目標やビジョンの共有を図る。				○夏季休業中に職員研修を実施した。	4		